



み ち

岐 路

むれやま荘だより
Mureyama News

障害者の自立と より豊かな社会参加を目指して

67
2022.12.1

■発行者

障害者支援施設
滋賀県立むれやま荘
滋賀県草津市笠山八丁目5-130
TEL: 077-565-0294
FAX: 077-565-0295glow
社会福祉法人グローURL: <http://glow.or.jp/>設立時の
むれやま荘

「社会参加」

所長 柴田 有加里



4月より宮川所長の後任として着任いたしました。平成25年に、むれやま荘の同敷地内に滋賀県医療福祉相談モール（以下、モール）という仕組みができて以来、むれやま荘とはかなり密接なつながりを頂いてきました。モールの構成機関は知的障害者更生相談所・ひきこもり支援センター・発達障害支援センター・高次脳機能障害支援センター・地域生活定着支援センターの5つですが、福祉の支援が必要であるにもかかわらず、社会から見えにくい生きづらさがみられる障害・高齢の県民の方のための相談支援事業所です。うち、私は定着と発達に所属していました。この間にむれやま荘の前々所長であった島田先生には様々なお願いをしていたところを思い出しています。本当にありがたかったのは、「生活のための医療」だからと言われて通常は行かないような所に、理学療法士さんを伴われて出張診療していただき、短期間で対象者の方の身体障害者手帳が取れるようにご尽力いただいたことです。このとき、制度の壁があつて到底無理かもしれないと思えることでも、何とかなる時もあるのだという経験をしました。また、宮川前所長とは、モールを構成する機関のうち3センターの運営を協働で行ってきました。直近のコロナ禍では感染症対策にかかる環境整備で大変お世話になりました。

むれやま荘は社会的なリハビリテーションを行う障害者支援施設という役割を担っています。ここでは、近い将来の生活をイメージしながら、今の生活の幅を広げる取り組みが展開されています。ですから、たとえ障害が残っていても生きづらい状況を少しでも軽減できるように、このむれやま荘で様々なツールや情報・人の支援を駆使することに遠慮なくチャレンジしていただきたいと思っています。ここでのチャレンジをご自分の居場所に活用していただき、少々不自由でも満足度の高い生活を手にしていただけるようなサポートを目指していきたいと思います。

この時期は特に、人や環境の変化もあってつらいこともありますが、人と人が会って育んだ時間はいつまでも心に刻まれているものだと信じています。また、そのことが明日の生きる糧になることが多いと思います。むれやま荘を利用されるみなさまが、また新たな出会いを通じて、日々の生活に豊かな彩りを加えていただけますように、職員一同、寄り添うコミュニケーションを心掛けて参ります。また、地域の関係者の皆様には、これまで以上の太い繋がりになるよう努力してまいります。何卒よろしくお願ひいたします。

新旧 所長あいさつ

この春、むれやま荘を8年間引っ張ってこられた宮川所長が異動となり、柴田新所長が新たに着任することとなりました。むれやま荘への熱い思いが込められたバトンを渡し渡されるお二人の気持ちを語っていただきました。



「Re Life」

養護老人ホームきぬがさ（前むれやま荘 所長） 宮川 和彦

むれやま荘をご利用のみなさま、今まで大変お世話になりありがとうございました。

私にとってむれやま荘で従事した時間は大変貴重なものであり、「社会参加」について考えるきっかけとなりました。平成26年4月1日付でむれやま荘へ着任し、創立30周年大会の開催を皮切りに、この8年間で200名ほどの利用者のみなさまが地域や社会へ再スタートされるお手伝いを職員と共にに行ってきました。



むれやま荘を離ることは寂しいことですが、この8年間むれやま荘の理念である“自立とより豊かな社会参加”を目指すお手伝いができるよう心掛けてきました。お一人おひとりが違った思いの中で、一生懸命生きておられる姿がたくさん思い出となっています。我々職員は、利用者のみなさまが「むれやま荘を選択して良かった。むれやま荘を利用して良かった。」と思っていただけるような施設づくりを目指してきました。

近年ではコロナ禍の利用が2年経過し、訓練やリハビリが思うように進まなかつた方もおられたと推測します。ですがむれやま荘での訓練やリハビリに励んでこられた姿は、次のステージでも輝き必ず生かされるはずです。

今回、後任として柴田所長が着任されました。むれやま荘は、人生の途中で事故や脳卒中により障害を負われた方や養護学校を卒業された方々の社会参加を目指す施設です。利用者のみなさまの思いをくみ取り、“自分らしい社会参加”を目指していただけるよう、職員一同がチームとなり利用者のみなさまと共に歩んでもらうことを切に願います。

4月から新たなむれやま荘がスタートしました。島田先生からつながったバトンを今度は柴田所長へとバトンタッチしました。バトンにはいろんな思いが詰まっています。踏襲と革新を繰り返しながら「むれやま荘」が新しい時代に突入しました。むれやま荘が利用者のみなさまの期待に応えるべく、また利用者のみなさまの思いが叶うよう、次の人生への門出を祈っております。



「タンポポの話」

むれやま荘 嘴託医師 木築野百合

昨年度より、むれやま荘の嘴託医として月に2回の診察や予防接種にお越しいただいています木築先生です。明るくバイタリティーに溢れた先生に、日頃の思いなどを寄稿していただきました。



きづきクリニックの木築野百合です。昨年からむれやま荘のみなさんの医療面をお支えする立場おりまます。栗東でクリニックをもっていますので、毎日むれやま荘でお仕事するわけにいかないのですが、月に二回ずつお邪魔しているので何人かの方は私の顔を覚えてくれたかと思います。私も、診療に関わる方々のお顔とお名前がだんだん一致してきました。

栗東のクリニックは平成15年に開院したのでもう20年近くになります。最初のうちは、患者さんも少なくもちろん、そうなると収入も少なく、なんとか出費を抑えてやりくりしないといけないと思い庭の雑草を見て、「タンポポの葉っぱは食べられると聞くし、食べてみようか?」などと思ったこともあります。実際にはタンポポは食べなかったのですが、そんな思いをしながら頑張ってきて今はなんとか順調に診療所としてなりたっています。

少し自己紹介をいたしますと、生まれは兵庫県の淡路島です。淡路島でのびのび育ち、引っ越しを何度も経験し高校生のときには、兵庫県豊岡市で過ごし一年神戸で浪人したあと滋賀医大に入りました。淡路島の中学校のときに片思いをしていた男子と、高校のころ文通をしていたのですが、その彼が野百合はタンポポみたいだと書いてくれたことがあって、タンポポっていう花が大好きになりました。その彼はいまでもわたしの応援団で、しっかり医者をやれよと、メールなどではげましてくれています。

滋賀医大を卒業してからは、外科医として県内や京都の病院に勤め、平成10年に開業しました。最初はある医療法人の診療所に院長として勤務していましたが、独立して平成15年にきづきクリニックをオープンしました。

外科医として経験してきたことを活かしながら、地域のみなさんの健康と安全を守るお手伝いをしてきました。お怪我した方の創(きず)を縫合するなども外科医の仕事ですが、痔などのお尻の病気や、女性にとってとても大切な乳腺の診察をすることも外科医のお仕事です。毎週金曜日の午後に南草津の野村病院という産婦人科の病院で乳腺外来を担当しています。(きづきクリニックでも乳腺の診療はいたしますが、マンモグラフィの撮影はきづきクリニックでできないのでマンモの検診は野村病院でかかる

います。) 野村病院は、婦人科の病院ですが患者さんが乳腺の相談をされることがあり院長先生(現理事長先生)が女性の外科医である私に、乳腺外来を担当するようにと呼んでくれたのでした。(先生は滋賀医大の先輩で、わたしの子供を取り上げてくれた先生ですので、この先生の言うことは断れない状況でした。) ここも最初のうちは患者さんが少なくて、でも今は毎週予約枠いっぱい患者さんがきてくれるようになって、女性の外科医が女性の命を救うお手伝いとして少しはお役に立てているかと思っています。おしゃべりの私は診療中たくさん話すので、のどが渇きます。ですから、いつもお茶を用意してもらっています。野村病院は妊婦さんが入院しておられることがあって、ノンカフェインのお茶を用意してくれています。タンポポの根を焙煎した「タンポポ茶」を毎週いただいている。タンポポ茶はおっぱいの出をよくしたり、利尿効果もあるそうです。冷え性、むくみ、便秘も改善するようです。西洋では古来授乳中のママが飲むハーブとして、愛されてきたお茶だそうです。私は授乳婦でも妊婦でもないのでですが、ここでもタンポポにお世話になっているということです。

実は、私、外科医としてだけでなく今は忙しいいろいろやっています。内科関連の疾患も看ますし、かかりつけ医としての研修も毎年受けています。認知症サポート医の講習も受けました。学校医、産業医、それに医師会の理事や同窓会の幹事、同門会の理事、里親プロジェクトの理事、頼まれて、できそうなことは断ることをしないので、肩書がどんどん増えています。滋賀県と母校(滋賀医大)のお役に立つのならと頑張っています。

むれやま荘に関わることになりましたのも、「断れない」状況だったからです。それは、島田司巳先生に頼まれたからで、先生に頼まれたら断るわけにはいきませんでした。先生は、私が滋賀医大に入学したとき滋賀医大の小児科の教授をなさっていて当時小児科に興味のあった私は、先生に覚えてもらいたくて学外研修に比叡山に出かけるバスで近くの座席に座り、先生といろいろ会話し、大好きになったのでした。私にとって先生は今で言う、「里親」みたいな存在で、滋賀医大を卒業する前に進路について相談したときに、「君なら女性であっても、外科医としてやっていくと思う。」と言ってくださった言葉が、外科医の道を歩む決心をしたわたしの背中を押してくれた言葉だったのでした。むれやま荘でのお仕事は、扱う疾患がわたしの経験してきた多くの患者さんの問題と少し異なるのでそれを断る理由にしてもよかつたのかもしれません、小児科医の先生がなさってきたお仕事が小児のお仕事ではないことがわかつていて、お断りするわけにもいかず自分の時間をどのように配分したら

お役に立てるかを考えることにしました。ちょうど世界中をコロナウイルスがはびこり、クリニックの患者さんが外出をひかえて受診控えをしたところで、患者さんが減ったのなら、こちらから出向いてでも患者さんを獲得する努力をしなければ、と思うタイミングとしては、そんなタイミングでした。

今回この原稿を書く前に島田先生が書かれた号を読ませていただき、先生がなさってこられたことの大きさを今更ながらに感じ、今からでもお断りしたくなっているのですが入所のみなさんの訓練などの専門分野はリハ職の専門家にお任せすることをお許しいただき、全身状態の管理、投薬管理、各種届出の書類の処理など、私でできることをさせていただこうと思っています。

看護師さんたちが、わたしの不足分を補うように力を貸してくれるので、とても助かっています。おかげで力不足のわたくしが一年続けてこられました。昨年、看護師さんが珍しい「ももいろたんぽぽ」の苗をわたしにくれたのですが、ちょうど先日そのピンクの花が咲きました。タンポポの花言葉は「幸運」とか「眞実の愛」とか書いてありますが、ももいろたんぽぽの花言葉は「あたたかみのある心」というのだそうです。地に根をはって、雑草とはいえ春に花をつけて人々をなごませ、かわいい綿毛でどんどんその世界をひろげていくタンポポ。そこにあたたかみのある心が加わると、それこそわたしのめざす医師の姿と重なります。

専門家でもなく、毎日おそばにいられるわけでもなく本当にお役にたつかどうか不安ですが、あたたかみのある心でもってむれやま荘のみなさんとかかわっていきたいと思います。

通所者
インタビュー

20歳を迎えて

二十歳の抱負

橋爪 ゆう

私は昨年(2021)の10月15日で二十歳になりました。

母は私がお腹に居た時に二分脊椎症の可能性があるとお医者さんから聞いていたそうです。

その為大学病院で帝王切開の後私を生んだそうです。生んだ後すぐに離され、私は生まれて十八時間後に一回目の手術を受けました。そこから二歳まで(十六回)同じような手術を繰り返したそうです。ようやくそこで容体が安定して二十歳まで生きてきました。

ただ二分脊椎の影響で歩く事は難しかったそうで、その為車椅子生活になりました。成長に合わせて数年単位で買い替えたりしました。車椅子を1台買うのに〇十万かかったそうです。お金面では父等に感謝です。定期的な受診はこれからも必要ですが、今後は一人でも通えるようにしたいと思っています。

その為に移動の手段として、電車等を一人で乗れるようになりたいのですが、親が心配している所があり、中々実現出来ていません。今後の目標(抱負)は親には極力頼らないで、行動範囲を広げる事です。私はまだ最寄り駅の周辺までしか一人で行動が出来ません。今後は兄弟等に手伝ってもらい、電車に乗る練習をして、将来は友達とだけで出掛けられたらと思います。

もう一つ目標があります。

働けるようになったら、親の負担を減らしていく事です。

むれやま荘に通うようになってからお小遣い制でお金をもらっているので、お小遣いでもらっていた分を働いたお金で頑張りたいです。まだ経験は浅いですが、出来る所は自分で頑張っていき、出来ないような所は家族や周りの力を借りて超えていきます。



二十歳になつて

喜多 彪世

僕は二十歳になった今、思う事が2つあります。

まず1つ目は自分でできる事を、もっと増やしていこうという事です。

なぜなら、事故をしてから前までできていた事、例えばトイレや、服を着たり脱いだりする事が非常にやりにくくなつた今、周りにたよっていてばかりではダメだとおもうからです。だから、今リハビリをしています。そして、少しずつ、出来る事を増やしていく、自分で身の回りの事をできるようになりたいと思っています。

そして2つ目は立派な大人になれるように、あいさつや、礼儀などマナーを守る、守れる大人になるという事です。しかし、例えば人と人が喋っているところをいきなり話に入っていくのは、マナーが成ってないと思うし、他にもいわれた事をせず、自分がやりたい事ばかりやっていてもダメだとおもいます。

そのためには、日頃から、意識しておく必要があると思います。なので、あいさつなど、誰にでも出来るようなことはきちんとして、ルールも守って行こうと思います、そして今までできていた事をもう一度できるようになれるように今リハビリをがんばっています。



第36回

書道コンテスト入賞!



「入賞おめでとうございます!」

第36回 障害者による書道・写真全国コンテスト(公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会主催)において、むれやま荘の中川義人さんと北岸杏佳さんが入賞されました!これからも、様々な事にチャレンジしてください。





昨年の木枯らし吹く頃に、1匹のトラ猫がむれやま荘の職員駐車場にふらりとやってきました。

片耳にさくらマークと呼ばれるV字の切れ込みがある“地域ネコ”でした。猫好きの利用者や職員がお世話ををするうちにちょくちょく現れ、いつの間にか皆さんのアイドルになっています。

利用者の中には、なかなか荘の訓練に参加できない方もおられます、「猫に会いに行く」ことをきっかけに動き出せることもあります。また、餌やりを日課にするなど何かしらの役割を持って頑張っておられる方もいます。

ある時、パタリと姿を見せなくなった事がありました。毎日せっせとお世話をされていたFさんは必死で探し回り、遂に「ここから声がする!」と職員に言いに来られました。無人の倉庫に何かの拍子に入り込み、出られなくなってしまった。Fさんのおかげで無事に救出する事ができました。

これからも、皆さんの癒しと訓練のサポート役として活躍してくれることでしょう。

こぼれ噺

にゃん*

ボクはパックン! ある人は、レムちゃんとも呼んでるにゃ。ボクの耳には地域ネコのサインがあるにゃ。お家がない僕のために、むれやま荘の兄さんが素敵なスカウトハウスを建ててくれたにゃ。だけど、最近はとっても暑いので、ちょっと涼しめの車庫に入ってるにゃ。暑くてたまらないある日のこと、車庫の隣の倉庫が開いていたから、うっかり入って寝ていたら、知らない間に扉が閉まっちゃったことがあったにゃ。キャー助けてーって力の限り叫んでいたら、いつもボクを可愛がってくれているフナさんが気づいてくれたのにゃ。フナさんは、ボクを助けるために、走り回ってくれたのにゃよーん。ありがとう! ボクは飼い主のいない地域ネコだけど、たくさんのひとがごはんをくれるにゃ。なでなでやだっこをしてくれることもあるにゃ。でもやっぱり一番のお友達は、毎日忘れずごはんをわけてくれるフナさんとヒロさんだにゃ。おかげでずいぶん太っ腹ににやつたよ。食べすぎにや!? これからも、優しくみまもってほしいにゃー



新任職員紹介



頑張ります!!
よろしくお願ひします!!



うらた とおる
浦田 等流

4月より着任しました【副所長】浦田等流(とおる)でございます。

在宅支援であろうと施設入所支援であろうと「大事」なものは変わらないと着任の挨拶の際に申し上げました。その「大事」なものとは何ですか?と問われてきそうですが、それはここで2,3の金言や名言を語ったところで頷けるものではないでしょう。皆様と語らい行動を共にする中で「大事」なものは共通言語となって、必ず明示されることだと思います。

糸賀先生より始まる「福祉の道行」の歴史と伝統を充分に継承しながらも、少々時代の路頭と喧騒に立たされている「むれやま荘」素晴らしい試練をいただけたと人事の恩恵に感謝いたしております。

ご縁の続く限り、どうぞよろしくお願ひいたします。



4月から生活支援員として、お世話になっております箕浦(みのうら)と申します。たくさんの初めてにのみこまれそうな日々ですが、利用者様への支援に向き合いながら、私自身、成長していくけるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

生活支援員
みのうら しおり
箕浦 栞



生活支援員
くまがわ あけみ
熊川 明美

6月より生活支援員として働かせて頂いております。利用者様がこれから先、どのような生活を望まれているのかを考えながら「日々を大切に」「笑顔を大切に」利用者様と共に過ごしていけばと思います。安らぎを与えられる支援を目指して。よろしくお願ひします。



臨床心理士
おおかわ なおか
大川 尚華

みなさまが、少しでもこころ健やかに過ごせるように、微力ながら尽力いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

編集後記

木築先生が記事の中で「ももいろたんぽぽ」の花言葉を挙げられていました。花言葉は「あたたかみのある心」というのだそうです。コロナ禍で閉塞感が漂う中、自分の事で精一杯になってしまい、自分以外の人の事を思いやる気持ちが少なくなっている自分がいます。先行きは見えませんが、身近な人の毎日はやってきます。あたたかみのある心を携えて人と関わりを持ち、その人の心を少しでも温かくするよう気持ちを持つ事が大事だと改めて気付かされました。そして、むれやま荘職員に、「ももいろたんぽぽ」の心をもつ人でいっぱいになり、利用者の皆様にその花を届けられたなら、と明るい未来を想像しました。木築先生、とても素敵な記事をご執筆下さりありがとうございました。